

第 82 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ :樹林環境の順応的管理—

2月の研修会では、皆伐更新区域での更新阻害植物の駆除・除去と、ホトケドジョウの生息環境再生のための樹木の除伐を行いました。



前日の夜に雪が降り、とても寒い朝を迎えましたが、ウメは花芽がつき、春の到来が近いことを感じさせてくれます。



始めに、今日1日の研修内容の説明がありました。
その他に、講師が今山梨県にある農業体験施設で造っている炭窯の作業経過などが紹介されました。



午前中は、皆伐更新地区での作業です。

左の写真はウワミズザクラで、伐ったものが約1年間で2m程成長しました。萌芽した芽は
実生より成長が早く、
萌芽更新したものは、3～6本ほど枝を残して伐ると全体に養分が行き渡り、よく成長します。



アカメガシワ・ハリエンジュ・カラスザンショウなどの更新阻害植物の駆除・除去作業開始です。



こちらの根の写真は左から、ニセアカシア・アカメガシワ・カラスザンショウ・イヌザンショウと並んでいます。

同じ環境条件や同属であっても、種によって根のつき方や色が違ってきます。普段、意識してみることの無かった植物の根を観察し、葉やトゲのつき方だけでなく、根もそれぞれに特徴があるという新たな発見がありました。

研修では、ずっと作業を行うのではなく、その場で見つけた気になる植物や昆虫などの生きものを観察するなど、休憩を入れながら自由に活動してもらっています。



次回の作業では、萌芽更新している本数や種類の確認調査を行います。

皆伐更新を行って2月でちょうど1年が経ちました。

林床に光が入ったことで、森の若返りが実際に進んでいくかどうか確認を行っていきます。また、皆伐更新地区の一角を、作業を行った場所との比較対象区として今後手を入れず、経過を見ていく予定です。

植物が芽吹く春以降、どう環境が変わっていくか楽しみです。



午後は、恒例の環境関連の気になるニュースや出来事などの発表から始まりました。皆さん、自分に身近なニュースや出来事などを取り上げられてお話されていました。

その中で、講師が取り上げた書籍を紹介します。

◆スモール イズ ビューティフル 著：E・F・シューマッハー

◆スモール イズ ビューティフル 再論 著：E・F・シューマッハー

◆宴のあとの経済学 著：E・F・シューマッハー

これらの書籍は、エネルギー問題や、中間技術（地域に適した規模の技術）などについて書かれている書籍です。

ご興味のある方は是非ご一読ください。



その後、北谷戸に移動し、ホトケドジョウのビオトープ再生のための除伐作業です。こちらの場所は、継続してきた作業の成果もあって、だいぶ明るくなってきました。



今回は間伐作業の前に、講師が以前お話されていた、ぶり縄による枝打ちを体験しました。

ぶり縄とは、はしごを使用せずに樹に登る技術の1つです。

足を掛ける枝に縄を結び、それを樹に巻きつけながら登っていき、枝を伐っていきます。樹にぶり縄を巻きつけるだけなので取り外しも簡単で、さらに縄の摩擦によって人が乗っても落ちません。

シンプルなのにすごい技術です。今回はぶり縄の結び方を習いました。



その後、ホトケドジョウビオトープ再生のための除伐作業開始です。

今回は、水路を挟んだ反対側の谷戸で作業を行いました。常緑樹のヒサカキ・シラカシの他に、シュロ・アオキも除伐します。

以前、この場所にはアマナ（陽があたる、草丈が低い草地などで見られる植物）が見られたそうです。

放置され、暗く陽の光が届かない環境になってしまった北谷戸でまた見られるよう、今後も作業を続けていきます。



本日の研修はこれで終了です。

次回も、皆伐更新地区の順応的管理とホトケドジョウのビオトープ再生を行う予定です。
萌芽更新の調査も実施する予定でありますので、興味のある方は是非ご参加ください。
お待ちしております。